

磐城時報

日刊 廿六 日
編輯者 石城郡平町紺屋町十四
印刷者 石城郡平町紺屋町十四
印刷所 加納活版所
石城郡平町紺屋町十五
發行所 磐城時報社
一部金貳圓一月金拾圓
廣告料一行十四字日金五字
日刊（日曜、祭日）休刊

白井氏側でけふ

沖網を投網

高橋氏側でも全部出帆 平署で嚴重に警戒

小名濱町大敷網問題は白井、高全部が沖合に出帆したが、高橋兩派が賃借権並に漁場争ひが側では又二十六日朝漁夫六十余人既に漁期に入つてゐるに拘は全部が何事か策する處あつてらずたゞ眺み合つて小競合ひを沖合に漕ぎ出したので平署では演じ双方から互に告訴を提起す萬一を慮つて嚴重警戒中であるので平検事局、平警察署で徒らに手を焼くのみ、最近に至つては高橋派では民政黨に應援を求め野崎、若松兩縣議等まで乗小名濱大敷網問題は白井、高橋り出し一方白井派では縣議鈴木兩派から遂に告訴が提起された辰三郎等が策動し遂に大敷網問題の其筋では事重大と眺み、問題は政黨の争ひと化した、かう事正に指揮を仰いだので福岡檢問題漁區以外の沖網を投げ入れ猪狩署長等と共に小名濱町に至三十四日には灘網を投網すべく小名濱警部補派出所を本部と側張りを行ひ今二十六日には又して塙、鯨岡兩司法主任が關係沖網一條を入れるため早朝漁夫十數名の取調べを行つた。

小名濱商港起工式

五月十七日盛大に舉行 國庫補助金立替を 淺野翁快諾す

石城郡小名濱商港はいよいよ來居るため余り完成年度が長期に五月十七日盛大に起工式を舉ぐるので地元小名濱町有志は完成する事に大体決定を見たので成年歳繰上運動を開始したが、それ／＼準備を急いで居るが同町財政上に關するの實現容易港は四年度から六ヶ年経費事業でないため過般有志が淺野翁一で完成年度は昭和九年となつて即翁に面會完成年度繰上に依る

告訴事件で 檢事正指揮

古河炭礦で
廢坑調査

石城郡好間村古河炭礦では百萬圓の巨費を投じて廢坑を掘鑿したが一昨年末突然水のため一夜にして廢坑に歸したので同坑の運反者は處罰すると。

火保料金引下のため 三町議出仙

幾分低下さるゝ模様

平町に於ける火災保險料金は屢に於ける過般引上げられたので平町有志は之に對し反對の運動を行つてゐるが今二十六日町會議員青沼錫太郎、井上茂作、野崎滿藏の三氏は平町役場花澤書記と共に仙臺市に至り保險協會に對し料金を引下げの運動を行ふ事になつたが、その結果料金は幾分低下さるゝものと信ぜられ

砂礫採取

石城郡小名濱から江名町に亘る海岸一帯は最近無届けにて砂礫採取もものが増加したが同所は大藏省主管となつて居るため平土木監督所では取締に非常困難に居たのでいよいよこの程同海岸一帯を内務省主管に移管し知事の委任権内に屬すことになつたから今後は遠慮なく違反者は處罰すると。

町有地の買手はついたが 痛しかゆしの町當局

成る可く一括して當りたい

本年度工事となつて居る平町役場、會場公會堂は元石城郡衙場は工費七萬圓を以て新川向へ會議室で正門は平町大目貫の大元郡役所裏側に千二百坪の土地を以て新築されることになつてゐるが

この工費の出途は現應舎敷地水道並に舊平陽女學校跡を賣拂つた代金を充當する事になつて居るがこの三敷地の賣却が出来ない爲め新築も行儀みとなつて居た、然るにこの程平陽女學校跡を千三百圓、現應舎を六七十圓の割で賣渡方を申込んで来た、右價格は大體役場當局の豫定價格に接近して居るが、然し敷地全部でなく分割的の申込であるため當局でも痛し痒しと云ふところだ

女郎の寫眞を 盗んで喜ぶ

平町鎌田遊郎住吉樓事出謙方の娼妓の寫眞陳列所にかけてあつた娼妓都の寫眞が去る二十二日午後八時頃何者かに窃取されたので届け出で平署で捜査中石城郡高久村荷馬車挽鈴木國親（三三）が盗みそれを平町月見町飲食店松本かよ方に隠匿して居たこと發覺平署に檢舉されたと同人は寫眞をながめては一人悦に入つて居た戀態性慾者である。

俳優を慕ひ 炭山娘家出

石城郡内村村磐城炭坑第三斜坑あるところだ

さらば平よ!!

東京市にて
報知 榎本 紀一

雨上り風や、強き快晴卯月春の二十一日、人花と共に酔ふ松ケ岡の櫻をあとに、二ヶ年のなつかしい思い出を抱いて、單身下阪赴任の途に向ふ。春陽浴びて平驛ホームの上に着てはふたどせ前着任當時のことどもが頭に浮ぶ。人を迎へ人を送りて幾春秋一悲喜交々哀別離苦、心なきコンタクトのホームも柔かに涙ぐむやう。スターター鐵路にシグナルすれば堅い車輪は柔かな絆を断つて滑り出す。正に發車!!親しき人々の顔うるみ勝るなる眼に走馬燈のやう……

青年雄辯大會

平町公會堂で
平町聯合青年團主催青年雄辯大會は二十六日午後六時より平町公會堂に開催されるが主催者側では之が準備と至町に立看板ポスター等により此壯舉の徹底的宣傳に努め人氣を集めて

酌婦逃走

宮飲食店三浦やえ方酌婦伊達那大綱村生れ安田ます（二〇）は平町公會堂に開催されるが主権者側では之が準備と至町に立看板ポスター等により此壯舉の徹底的宣傳に努め人氣を集めて

小川村の小火

石城郡小川村大石萬太郎方裏手の藪積場から廿四日午前十一時半頃發火したが直に消しとめた、原因は同人の二男孝六（六）の弄火から。

平學童身体検査

第二尋常高等小學校兒童の身体検査は二十六日から五日間同校

（四・四・二一）午後二時、櫻散る。勿來の關を通る頃記）

